



ミャンマーにおける防災に関する能力開発事業

コミュニティ・ベースの災害リスク管理

I. 背景

サイクロン「ナルギス」は、2008年5月2-3日にかけて風速200km/hもの強さでミャンマーを襲い、エーヤワディ(イラワジ)デルタ地域とミャンマー基幹都市かつ旧首都であるヤンゴンを駆け抜けました。エーヤワディ、ヤンゴン両管区は強大な高潮と重なったこともあり最もダメージが大きく、特にデルタ地域では全体の95%もの家屋が破壊されたと推定されています。当初国連が150万人と推定していたこのサイクロンによる被災者数は、240万人(OCHA ReliefWeb)という数字に達しています。

この巨大サイクロンによる被害は、被災地域だけにとどまらず、災害リスクの高いあらゆる地域におけるコミュニティレベルでの総合的災害リスク軽減政策の必要性を改めて認識させる経験となりました。

II. 活動概要

シーズ・アジアの活動は、(1)「ナルギス」後の復興と長期的・持続的発展との統合、および(2)防災に関する能力開発を行うことによる現地の弾力性強化、という二つのアプローチを通して、コミュニティ・ベースの災害管理の優れた実践を示すことを目指します。現行の復興活動において見落とされがちな隙間を埋め、地域に密着した防災活動を導入するための適切な活動計画に基づいて事業を展開します。また、活動内容は、ミャンマー事業におけるパートナーであるChurch World Service (CWS)からの将来時点での介入を通して、活動そのものが持続的かつ反復可能となるように計画されています。

1. 目的

総合的目的:

- 防災意識向上および防災訓練を通して、自然災害へのリスクを伴う現地コミュニティの弾力性を強化すること。

具体的目的:

- 長期的持続的発展と復興活動を統合させることにより「災害前よりもよいかたちへの復興」というアプローチを促進すること。
- 災害リスク管理への意識向上活動および防災訓練を通して、現地人道支援活動団体とコミュニティの能力を培うこと。

2. 活動内容

昨年実施したサイクロン被災者向け仮設住宅建設の技術支援及び人材育成事業での活動経験を活かしつつ、SEEDS Asiaは今年度も住宅建設に関する技術支援・人材育成活動を継続します。被災地域における住宅建設の技術支援を継続するに当たっては、SEEDS Asiaが直接的に住宅を建設し提供するのではなく、前年度の取り組みと同様に、地元の大工や建設業者への直接的技術訓練や、彼らに技術訓練を行う現地団体等に対する間接的技術支援を実施する事によって、地域住民による自助努力を促進し、住民自身による持続的な復興を可能とせしめる技術支援の在り方を模索します。

また、前年度の活動内容に加え、今年度は学校を地域の防災拠点ととらえ、将来に再び起こるであろう災害が再度の甚大な被害を及ぼさないように、学校の防災対策、教師や子供たちに対する防災教育の普及、および学校現場から発信する地域住民やミャンマー現地NGOを巻き込んだ防災意識向上のための取り組みを実施します。